

水戸殉難者恩光碑保存会 会報

# 知恩 第十一号

茨城県水戸市八幡町11-69  
祇園寺境内に建立  
「恩光無辺の碑」

新潟県柏崎市西山町灰爪向平  
873番地  
灰爪の丘に建立  
「北越戊辰の役当所戦没者供養塔」



市川勢が多数死傷した  
灰爪に建つ供養塔

新年度（24年）を迎えて

川上有文

昨年（23年）の東日本大震災により、未曾有の大災害は大変な事態になっていますが、一日も早い大災害の復旧・復興を祈るばかりです。

本会も、昨年は多難な年でありましたが、皆様のご支援・協力により何とか乗り切る事が出来ました。本年は、本会として最大の課題として、次の二つの事に大きな関心を持っています。

一つは、水戸藩諸生党殉難志士の名誉回復のために、水戸市教育委員会に申請した「恩光無辺の碑」を水戸市の史跡に指定頂きたいと心よりお願いするものであります。諸生党殉難志士数百名の悲惨な状態を知らば知る程、諸生派ゆかりの人々の心は痛むばかりであり、心からの悲願であります。

水戸市教育委員会規定によると、史跡指定は水戸市文化財審議委員会の審議により、史跡指定の可否が決まると承りました。水戸市議会質疑応答にありまますように「歴史上の事実は差別することなく、公正な視点で判断されるべき

もの」と考えています。大きな関心を持って見守っている所であります。

二つは、異郷の地で無念にも斃れた水戸藩諸生党殉難志士を慰養供養することでありまます。また、八日市場の皆様、会津の皆様、新潟県北越の皆様など、各地の皆様方の心温まる供養の心情に心より感謝申し上げます。

本年は10月23日に、戊辰戦争で新潟県の北越各地で斃れた160余名の人々を供養するため、新潟慰霊旅行を予定しています。特に、今回は、友好団体である「幕末維新水戸有志を偲ぶ会」と共催にて新潟慰霊旅行を実施します。是非、この新潟慰霊旅行を有意義な旅行にしたいということでありまます。皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。（会長）

平成24年度 総会報告

総会に先立ち、「恩光無辺の碑」に参加者全員で献花焼香参拝し、殉難者を慰養しました。

平成24年3月25日、本年度総会を開催し、原案通り承認されました。詳しいことは総会資料をご参照願います。（事務局）

総会次第

とき 平成24年3月25日  
午後1時30分より  
ところ 祇園寺・客殿大広間

進行 事務局

- 1 開会
  - 2 会長 挨拶
  - 3 住職 挨拶
  - 4 議長 選出
  - 5 議事 事務局説明
  - 第1号議案 平成23年度行事報告
  - 第2号議案 平成23年度收支決算報告
  - 同 監査報告
  - 第3号議案 平成24年度行事計画案
  - 第4号議案 平成24年度予算案
  - 第5号議案 役員人事の件
  - 6 その他 新潟慰霊旅行の件具体化検討
- 午後3時30分 終了

第1号議案

「23年度行事報告」

1 水戸藩国事殉難者慰霊法要を  
挙行  
平成23年9月24日、祇園寺に  
おいて慰霊法要を行いました

2 総会 3月13日

3 役員会 2回  
(7月、12月)

4 事務局会 5回  
(1月、2月、4月、5月、  
6月)

5 会報知恩編集会議 2回  
(4月、11月)

6 会報知恩発送  
(第8号・2月 第9号・5月  
第10号・11月)

7 東日本大震災により被災した  
恩光無辺の碑を修復しました  
(9月)

8 恩光無辺の碑を水戸市の指定史  
跡にして頂くよう水戸市教育委  
員会に申請しました  
(10月)

第3号議案

「24年度行事計画」

1 新潟県 「北越戊辰戦争水戸藩  
殉難者を慰霊、及び史跡見学」  
の旅行を実施の予定  
日程は決定  
平成24年10月23日～24日  
一泊旅行に決定  
詳細事項は検討につき決定後  
お知らせする

2 総会 1回(3月25日)

3 役員会 2回予定  
(3月25日、10月)

4 事務局会 随時  
(2月、8月、10月予定)

5 会報知恩編集会議 2回予定  
(4月、10月)

6 会報知恩作成発送 2回予定  
(5月、11月)

7 その他 新潟慰霊旅行の細部を報告、  
検討する

8 新潟慰霊旅行の件具体化検討

第5号議案

「役員人事の件」

◆役員名簿

平成24年3月25日

- |      |       |         |
|------|-------|---------|
| 顧問   | 小原宜弘  | 祇園寺住職   |
| 顧問   | 大森信英  | 初代会長    |
| 顧問   | 野澤 汎  | 初代理事    |
| 顧問   | 高橋丈夫  | 水戸市議会議員 |
| 会長   | 川上有文  | 事務局     |
| 副会長  | 蔭山二郎  |         |
| 副会長  | 前澤瑞穂  |         |
| 副会長  | 大森信男  |         |
| 常任理事 | 岡見円礼  | 事務局     |
| 常任理事 | 朝比奈泰紀 | 事務局     |
| 理事   | 平戸吉衛  |         |
| 理事   | 一澤勝男  |         |
| 理事   | 信木義通  |         |
| 理事   | 綿引正明  |         |
| 理事   | 弓削徳衛  |         |
| 理事   | 岡見瑞江  |         |
| 理事   | 田口 寛  |         |
| 理事   | 大森泰夫  |         |
| 理事   | 朝比奈泰幸 |         |
| 理事   | 鶴殿長昭  |         |
| 理事   | 深谷益美  |         |
| 理事   | 市川達也  |         |
| 監事   | 松葉尚志  |         |
| 監事   | 宇留野光  |         |

平成23年度 収支決算報告 23.1.1～ 23.12.31 単位・円  
第2号議案

収入の部				支出の部			
科目	金額	内訳	摘要	科目	金額	内訳	摘要
前期繰越	19,442			慰霊法要費	132,303		
年度会費	150,800			経常経費	158,492		
年間寄付	70,000			寺院費		15,000	会場費
慰霊法要	133,000			通信費		88,311	郵送料
参加会費		133,000		資料費		28,050	会報
その他	3,000			会議費		2,660	
雑収入		3,000		事務費		4,205	
				雑費		11,346	
				振込料		8,920	
				基金へ移管	60,000		寄付金移管
合計	376,242			合計	350,795		

次年度繰越残高

次年度繰越	前期繰越	当期入金	当期払出	当期末残	
恩光碑保存会	19,442	356,800	350,795	25,447	
東京貯金センター	1,000	150,000	150,800	200	
恩光碑保存会基金特会	315,797	228,063	351,050	192,810	碑修復費等
合計	336,239	734,863	852,645	218,457	

平成23年度 収支決算を 上記のとおり報告致します  
2011.12.31 水戸殉難者恩光碑保存会

会長 川上有文 印

事務会計 岡見円礼 印

監査報告

監査の結果、帳票・決算書とも適正であることを認めます  
2012.3.25 水戸殉難者恩光碑保存会

監事 大森信男 印

監事 宇留野光 印

平成24年度 収支予算案 24.1.1～ 24.12.31 単位・円  
第4号議案

収入の部				支出の部			
科目	金額	内訳	摘要	科目	金額	内訳	摘要
前期繰越		25,447					
24年度会費	160,000			経常経費	160,000		
法要参加	600,000	160,000	80x2000	寺院費		10,000	総会場費
新潟旅行会費		600,000	30x20000	通信費		50,000	会報送料等
				資料費		32,000	会報印刷等
				会議費		20,000	会議諸掛
				事務費		10,000	事務諸掛
				雑費		10,000	
				振込料		8,000	会費送料
				予備費		20,000	
						160,000	
				慰霊法要費	600,000		
				新潟慰霊旅行		600,000	
合計	760,000			合計	760,000		

平成24年5月1日

「新潟県 戊辰戦争・水戸藩戦没者慰霊と史跡見学」の旅

ご案内

水戸殉難者恩光碑保存会  
事務局

平成24年・新しい年となりました。皆様におかれましては、元気にお過ごしのことと存じます。本年も宜しくお願い致します。本年度の行事・新潟慰霊旅行についてご連絡致します。平成24年度は、本会・水戸殉難者恩光碑保存会 と 幕末維新水戸有志を偲ぶ会との共催により、新潟県「北越戊辰戦争・水戸藩戦没者慰霊と史跡見学の旅」を、下記のとおり、実施致します。是非、ご参加下さいませようご案内申し上げます。

記

- ◆旅行日時 平成24年10月23日～24日(火～水)、一泊二日
- ◆行き先 新潟県 北越地方(柏崎市西山、出雲崎町、長岡市寺泊、弥彦村、長岡市内)
- ◆宿泊先 弥彦温泉 (弥彦グランドホテル)
- ◆募集人員 40名 (水戸有志を偲ぶ会・20名、恩光碑保存会・20名)
- ◆参加会費 お1人・¥20,000円(宿泊代、昼食代、バス諸掛、見学科、その他)
- ◆申込締切日 第1次締切日平成24年8月31日(先着順・必着)  
最終締切日 平成24年9月30日
- ◆集合場所 水戸市役所 玄関前
- ◆集合時間 午前6時50分
- ◆出発時間 水戸市役所・午前7時00分「出発」→水戸駅南バス・ローラー・午前7時15分「出発」
- ◆車両 水戸市の大型バス (福祉号)

行程

- 第1日 (10月23日)  
出発午前7時(水戸市役所)→茨城町東IC→北関東道→高崎JCT→関越道→北陸道→西山IC到着予定(正午)  
昼食(西山ふるさと公苑・角さんの台所)→西山町灰爪の丘(水戸藩戦没者供養塔慰霊参拝)→出雲崎・代官所  
跡見学→長岡市寺泊・法福寺(家老・佐藤図書信近の墓参拝)→弥彦温泉・ホテル着・午後5時頃

※ 弥彦グランドホテル 夕食会 午後6時30分より

- 第2日 (10月24日)  
出発午前8時(ホテル出発)→弥彦神社参拝→三条燕IC→長岡市IC→長岡市内(河井継之助記念館見学、山本五十六記念館見学)→昼食( )→長岡IC→関越道→北関東道→茨城町東IC→水戸駅南→水戸市役所帰着  
午後7時頃帰着

以上

◆戊辰戦争とは

慶応4年(1868年)1月3日、から明治2年(1869年)5月18日、西軍(薩、長、土、他連合軍)と旧幕府軍との最大規模の国内戦であつた。

慶応4年の千支が戊辰であつたので「戊辰の役」と言う。

◆鳥羽伏見の戦い

慶応4年1月3日〜5日

薩摩、長州軍 対

旧幕府軍、会津、桑名藩兵

◆江戸城無血開城

慶応4年4月11日

◆上野戦争

5月15日

◆北越戦争

慶応4年4月27日〜7月31日

西軍(北陸鎮撫総督軍) 薩長対

奥羽越列藩同盟軍、水戸諸生党

◆会津戦争(1868年)

慶応4年8月23日〜9月22日

明治は9月改元

西軍(薩長土、他連合軍) 対

会津藩、水戸諸生党

◆函館戦争(1868年〜1869年)

明治元年10月20日〜明治2年

5月18日

西軍と蝦夷共和国軍(榎本軍)

◆戊辰戦争終結

新潟県 戊辰戦争において

水戸藩戦没者の姓名を明らかにして、戦没者諸士のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

尚、この名簿は水戸市史編纂室編の「諸生党名簿」をもとに作成している。参考史料は次の通り。

- 1 水戸国難事件殉難者名簿
- 2 水戸藩史料
- 3 水戸藩絶家録
- 4 水戸幕末風雲録
- 5 大日本維新史料稿本
- 6 征討日記

(久留米藩士佐々木高道)

水戸藩諸生党(市川勢)の越後方面に於いて最初の戦死者が出るのは、慶応4年5月3日の椎谷、宮川の領地であり、寺泊で佐藤図書は5月4日病没している。

鯨波(くじらなみ)にも進出しており、拠点を出雲崎陣屋であつたと思われる。

5月14日灰爪・市野坪で多数の戦死者が出、与板、与板見張台、馬頭見張台付近で、5月14日から7月13日まで多数の戦死者を出したが、これを最後に北越での戦死者は出してはいない。

●戦没者姓名 次のとおり

★越後 椎谷(しいたに)

慶応4年5月3日  
磯野長兵衛 大番組  
荻昇介君賢 大目付

鈴木貞蔵  
高橋松兵衛 徒役

中山新之介  
増子孝十郎 同心頭

安松七五郎重房 同心頭  
新八(志水陸一郎家来)

久賀一之進 小十人組  
鈴木亭三郎重淵

熊吉(久賀一之進家来)  
江橋清介利員

黒沢与助  
疋田伝八郎久政

稲垣平太郎重忠 馬廻組  
★越後 宮川(みやかわ)

慶応4年5月3日  
浅野彦八

内田鎌蔵  
大津兵衛門

木村勝之介 鈴木岩石見守家来  
鈴木鉄五郎

鈴木和介  
武石勝七

武石次衛門  
百澤金蔵

梅原留次郎  
佐々木権次郎  
★越後 灰爪(はいづめ)

慶応4年5月14日  
阿部惣太郎幸吉 中奥番

石川源次郎時政 郡奉行  
磯野理三郎 徒目付

岩崎勝次郎  
岩間善吉

今村喜左衛門孝本 後日生存判明  
海野志摩 神職

氏川安三郎  
大木藤一郎

大久保貞蔵衆拳  
寛平三郎 寛助大夫弟

加藤幸吉  
片山丑三郎 小十人組

鴨志田孫三郎  
木村仙太郎

君島百平  
草根勘蔵

後藤久米之介 郷士  
後藤吉兵衛 郷士

小池兼蔵 先手同心  
佐々末吉

鈴木鉄一郎 大番組  
鈴木祐蔵

鈴木庸之介  
鈴木伴七

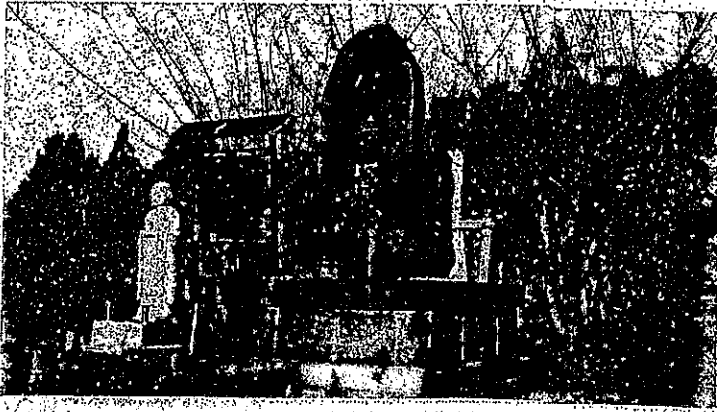
鈴木新五郎 目付方

杉山松之介 徒目付  
 杉田三人  
 千賀惣太郎  
 高安与衛門  
 辻島健蔵  
 橋詰西松  
 瑞富太郎善昌  
 平戸直蔵  
 正田政平  
 堀江莊次郎  
 益子弥平太  
 室留井寅之介  
 谷田部八介忠行  
 弓削左内有恵  
 白石熊弥太  
 杉山七次郎  
 松本辰蔵  
 松本寅吉  
 宇野秀五郎  
 宮地蔵介  
 三代造酒之介  
 奥岩勘介  
 加藤太郎兵衛  
 ★越後 市野坪(いちのつぼ)  
 慶応4年5月14日  
 伊藤銀蔵  
 飯村広蔵  
 大森其太郎  
 大内健蔵  
 小園兼次郎

尾羽権次郎 徒士目付  
 川勝清太郎  
 桑名久三郎  
 小西精八  
 小松崎次郎兵衛  
 沢田源八郎  
 豊島久兵衛  
 中村乙三郎  
 根本宗衛門  
 林又次郎  
 平山辰之介  
 星左五郎  
 吉村直三郎  
 斎藤源次郎  
 ★越後 与板(よいた)  
 慶応4年5月14日  
 安食和七郎  
 岩間醒次郎  
 飯塚孝之助  
 海野数馬  
 海野捨之介  
 岡崎藤衛門  
 岡崎大次郎  
 木村蔵太郎  
 久賀安三郎  
 後藤郡司  
 佐川喜次郎  
 齋藤道順  
 笹沼醒次郎  
 郷医

(?) 田淳之介  
 富田多介  
 長山長三郎  
 根本清之介  
 深山八郎  
 丸山善次  
 矢島信之介  
 平介  
 林之介兵衛  
 徳兵衛  
 鎌蔵  
 戸崎留五郎盛得  
 渡辺吉之介  
 結城七之介  
 小野利三郎  
 ★越後 与板見張場  
 慶応4年6月15日  
 青木源四郎  
 飯島魚之介重之  
 猪西貞之介  
 岡見幸蔵  
 萩谷彦八郎  
 杉浦幸蔵  
 高久彦次郎  
 官本鎌吉  
 ★越後 馬頭見張場  
 慶応4年7月13日  
 井上和次郎  
 宇戸徳之介  
 加藤木鉄

笠原正平  
 北岡彦八  
 倉田幸吉  
 小林捨之介  
 砂川銀之介  
 高橋保次郎  
 和田三次郎  
 鉄吉  
 文蔵  
 乙吉  
 亀吉  
 久衛門  
 孫十  
 ★越後 慶応4年  
 阿部惣太郎  
 薄井宗作昌豊  
 磯野玄達  
 小田木新介  
 鈴木新治郎  
 高野定之允  
 武石善右衛門  
 平 辰之介  
 堀口庄次郎  
 前嶋淳徳安盛  
 和知三次郎  
 吉三郎  
 清兵衛  
 安蔵  
 金沢藤之介  
 北越戊辰戦争戦没者 以上



### 31 灰爪の供養塔

灰爪の埋葬塚に隣接した畑で昭和五十年代に四体の白骨（男性一、女性二）が発見された。うち三体には頭部などに斬傷があることが、鑑定した新潟大学医学部によって確認された。いずれも市川勢の遺骨とみられ、地権者らは、茨城県の有志の協力を得て発見された場所のそばに供養塔を建てた。



### 32 灰爪の埋葬塚

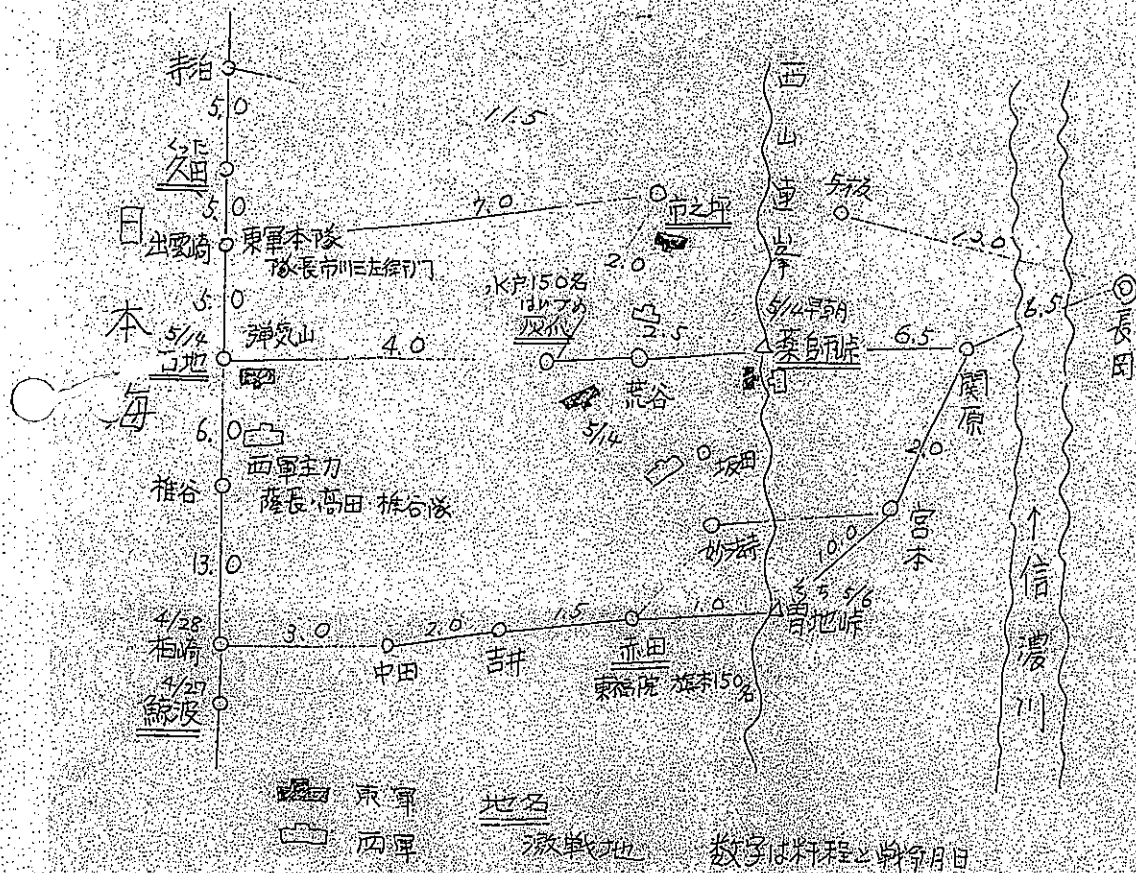
椎谷方面で敗退した市川勢は、海岸線から山間部に入り、新政府軍との戦いを繰り返し、五月十四日の灰爪・市の坪での戦闘では真助太夫の弟平三郎、大森弥三左衛門の弟で結城寅寿の名跡を継いだ結城七之介ら六十五人が戦死。灰爪の高台には戦死者をまとめて葬ったとみられる複数の塚が、いままのままの状態に残っている。

### 22 家老佐藤図書の子

市川勢は、新潟から海岸線を進み、弥彦を経て寺泊にやってくる。幹部で家老の佐藤図書は、寺泊の菅沼喜八宅の前で病没した。五月四日だった。菅沼家はこれも何かの縁と、同家の菩提寺の法福寺に葬った。法福寺の過去帳には、「家老職佐藤頭正四十四歳寺泊に追戦して病死」との記録がある。  
佐藤の墓はない。菅沼家の墓所のそばに、小石がいくつか置かれているが、ここに葬られたといわれている。戊辰戦争後、水戸藩の追手が寺を訪ね、佐藤の遺体を掘り返し、首をはねて水戸に持ち帰り、市街にさらしたという話が伝わっている。



別山地域での戊辰戦争(慶応4年5月14日新暦7月3日)



戦争余話

当時の天候 (出雲崎編年史より)

5/3	雨	5/9	雨	各所堤防切れ、与板一田浸水
5/4	夜雨	5/10	晴	長呂士手数百間切れ、与板やや浸水
5/5	雨	5/11	晴	洪水、与板～長岡通路無し
5/6	夜雨	5/12～5/20	雨	16日大雨、18夜中大雨
5/7	大雨	5/21	晴	
5/8	大雨	5/22～24	雨	



### 新潟慰霊旅行を前にして

北越戊辰戦争はどのような状況であつたのか。

現地の資料を収集する中に、地元・灰爪の荒木家光氏が書き残した貴重な資料が見つかり、是非、これを皆様に紹介して、少しでも理解を深めたいと記載しました。

荒木様をはじめ、地元の方々の心温まる手厚い供養の心情に深く感謝申し上げます。全員一同に代り、まず、この一言を申し上げたいと思います。(川上)

### 戊辰戦争・灰爪の戦い

平成2年「おらが町学級」資料  
荒木家光氏・遺稿より

北越戊辰戦争西軍、東軍激戦地の遺骨発掘控え

◎昭和52年6月12日、午後5時30分トマト畑より発見  
場所 畑所有者 池田基市  
耕作者 荒木家光  
発見者 荒木ハナイ

夕刻 西山町役場住民課へ連絡。別荘駐在へも連絡し指示を受け翌日、早朝、正法寺住職により現地にて発掘。

13日、柏崎警察署課鑑識課長以下3名、別荘駐在、役場角田課長、伊佐教育委員会主事、和田又治文化財審議委員長並びに地主関係者の協力にて発掘する。

◎北枕に浅いところ20cmに、両手を胸に合わせ合掌し、古銭4枚、(皇宗通宝)中国銭600年前の銭、と共に、発掘。

数日後、新聞報道により、新潟大学・小片教授の要請により、新潟大学へ持参する。

◎昭和53年6月1日、昨年の発掘位置より南へ2mで1体発見。

◎昭和53年6月2日、西山町所有畑より、また1体発見。荒木家光

◎昭和53年6月2日、西山町役場住民課、別荘駐在へ連絡し、6月8日午前発掘。

各関係者立会の元に、遺骨は、NO1同様に北枕にて胸に手を合わせ、NO2は頭の下に永楽銭6枚有り。NO3は埋設状態同様なれど古銭なし。

◎発掘日時は、新大・小片教授に連絡。新大の要請により同日午後、伊佐、徳永主事、荒木氏3人にて白骨NO2、NO3を個別に持参する。小片教授は一見して、どうもこの仏は女性らしいと言われ、一問、一答の後、白骨の年代が600年前か、又は1000年前か調査を依頼して帰る。その後、小片教授の鑑定書の来るのを心待ちにしておりましたが、昭和55年小片教授が急死したのでそのままになる。

◎昭和53年12月1日、水戸市市史編纂室石川係長を訪問して、発掘の現況をお話して、供養と墓印の件を依頼する。

◎注、NO1発見後、長岡市の稲川さんと水戸市との連絡により、灰爪激戦地の水戸藩史料により、戦死者名簿を受領する。

◎東軍水戸諸生党、市川三左衛門、佐藤図書配下140人が灰爪村の向山に5月12日陣を構え、西軍の北上を阻止すべく奮闘中、別山村の庄屋の手配が坂田村西軍本陣田満寺へ通報し是により、西軍14日辰の刻(5時)、長州

◎尚、50人位の戦死者は、「塚」に埋めたもの火葬にしたものと聞いている。

一個小隊、加州・水野徳三郎一個小隊が大砲一門にて田沢村、尾野内村より大砲2弾連発の攻撃を受け、また、歩兵隊の猛攻を受け、戦死者50数名を残し、出雲崎の本隊へ合流すべく石地駅方面へ散走した。

◎西軍灰爪攻撃の案内役は、椎谷藩の佐藤喜佐工門であると加州藩の報告書にある。

◎思うに、発掘されし4体の人骨は、激戦前に亡くなり、味方(東軍)が埋めたものと思われる。新潟大学・小片教授にも人骨の埋めてあつた深さ、方角、状態等を進言する。

◎註、慶応4年5月14日は、今の歴に直すと、7月3日で、当時は田植えの最中で雨降りの状況にあった。

慶応4年は(1868年)  
昭和52年は(1977年)

### 供養塔設立までの道

親達より明治維新の際、会津戦争と言つて大勢の武士が戦い沢山の人が亡くなった。そして、「埋まつている所はこのあたり」とこの塚のことは聞いていましたが、百年もたった今(昭和52年6月12日及び翌年6月1日、2日)、4体の白骨が立派な保存の状態出てくるとは予想もありませんでした。発見後、町役場、警察と各所皆様の協力にて発掘し、柏崎警察署鑑識課でも、是は事件のい関係ないと言われ、新潟大学・小片教授の要請により新大へ持参致しました。

先生は、人骨の世界的権威者であり、先生に年代の早期鑑定をご依頼致しました。

その後、各方面より資料が寄せられ、加州藩の戦闘報告書、水戸藩史により灰爪の戦没者も五十有余名と解り、別山村の古老の伝承などで、慶応4年5月12日、東軍「水戸藩諸生党・市川三左衛門の配下・150名」が、灰爪に陣地を構え、西軍を迎え撃つための準備をしていた所、5月14日早朝、西軍長州一ヶ小隊、加州一ヶ小隊

の大砲一門の攻撃を受けました。(案内役は椎谷藩の佐藤喜左エ門と解りました)

西軍の攻撃は大砲を連発し、歩兵部隊の進攻がいかに激戦であったか東軍の戦死者があまりにも多いことでもわかり、ただ驚くばかりです。

その後、戦没者供養等いろいろ皆様と話し合い、又、水戸市役所の石川係長とも話し合い、お願いもしてきましたが、諸般の事情から意のままにならず、頼りにしておりました新大の小片教授が急死され、鑑定書も出ず、月日がたつばかりでした。

平成元年に至り、戦いの場となつた地主関係者が発起人となり、町内外の有志の皆様が物心両面の御協力により、ここに、供養塔を建設して、本日開眼供養ができるはこびとなりましたことは、諸先輩の皆様の大なる御援助の賜物と深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。尚、詳しくは灰爪の戊辰戦争を

や読みくだされば幸いです。  
平成元年十月十二日  
発起人代表 荒木家光 各位

### 戊辰の役・灰爪の戦いについての考察

この考察は水戸藩士の名譽の為に書き残すものです。

昭和52年6月12日以来、4体の白骨が戦いの場となつた付近から出土し、埋蔵文化財として新潟大学に大切に保管されてあります。

私は発見当初より、私の供養と供養塔の建立を願つてきた者ですが、平成元年10月12日、念願の供養塔の開眼供養も町内外の多数の皆様御協力によつて無事成就しました。この戦いで多数の戦死者の出た状況については遂に解明されずじまいでしたが、平成元年10月上旬になり、西軍の連発した砲弾の一発が上山田村の一本松に当たつて落下し、他の一発は上山田村の田の中に埋もれていることを古老言で確認しました。平成2年に至り、この戦い当時、別山村某家に、水戸藩士が多数宿泊していて、その時使つた火繩銃、槍等が同家に保管されていることも判りました。

戦い当日、即ち、慶応4年5月14日の天候は、金沢加州藩の古文や薬師峠を死守した会津藩井上哲作の報告書、また、別山村の古老の伝承等にも「昨夜来の冷雨」とあ

るように、雨降りでした。その為、東軍は、主力兵器である火繩銃が使えず、西軍が使用した単発撃銃の猛射の前に、予想外の戦死者を出したものと思われれます。戦場となつた畑は、120年前の戦争当時には、現在のように柿の木等は無く、50cm程に成長した一面の広い麦畑であつたことから、後退の際には西軍火器のよい目標になつて、更に、戦死者の数が増したのではないかと思われます。

致命的な悪条件の中で東軍将士が如何に勇敢に戦つたかを書き残し、供養の一助になればと、今日まで調査し、聞いたことを記して終わりとします。合掌  
荒木家光  
平成二年三月二十日

◆この一連の文書は、  
柏崎市西山町灰爪の荒木家光氏が水戸藩諸生党戦死者の供養の爲に書き残されたものです。  
又、水戸市・祇園寺の恩光堂に碑・碑域整備に、末福平達氏と共に尽力されました。  
「残念ながら、荒木家光氏は平成八年に永眠されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。」

●新潟県 戊辰戦争戦没者供養塔慰霊の経過

●水戸藩の戊辰戦争戦死者

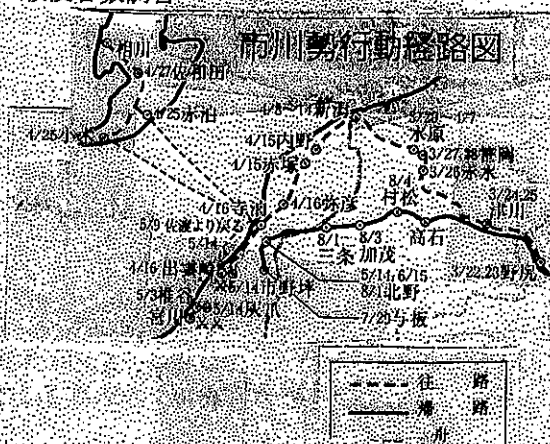
1. 新潟県刈羽郡西山町灰爪の丘に慶応4年5月14日、当地の戦いにおいて戦死した水戸藩諸生党の人々を埋葬した「塚」がある。又北越戊辰戦争戦没者の供養塔が建立されている。
2. 水戸藩家老・佐藤図書信近は寺泊にて病死、寺に墓あり。(法福寺)
3. 灰爪の戦死者 49名、北越全体の戦死者 160有余名

●供養塔参拝者等

1. 諸生党の子孫にて、当地に来られて当時を偲んだ方、数名あり。  
 昭和53年10月31日 佐藤重雄氏 先祖「佐藤図書」寺泊にて病死  
 昭和57年8月24日 大森信英氏 先祖「大森金六郎」灰爪にて戦死  
 昭和57年5月4日 桑名正太郎氏 先祖「桑名久三郎」市野坪にて戦死  
 「兄弟4人、娘1人」と共に  
 昭和63年10月14日 水戸より、諸生党を訪ねる会会員20名
2. 平成元年10月12日 (北越戊辰の役当所戦没者供養塔) 建設。  
 西山町、駒野町長、水戸市議会、福島議長、地元町会議員、  
 発起人他有志一同により開眼法要を行う。
3. 平成2年4月18日 水戸市酒門町、綿引副議長以下33名 供養塔参拝。  
 平成2年5月9日 茨城県歩け歩け会 会長が供養塔参拝下見に来る。  
 平成2年6月12日 発起人、西山町議会議員、正法寺住職による法要を行う。  
 平成2年6月30日 東京浅草 斎藤裕氏 供養塔参拝。  
 平成2年9月13日 寺泊町 小宅朝男氏供養塔参拝。  
 々々 水戸市、新庄地区ふるさと研究会の方々 供養塔参拝  
 々々 勝田市、勝田地区ふるさと研究会の方々 供養塔参拝
4. 平成4年7月12日 水戸市、来栖平造氏 地蔵尊像建立、開眼法要す。
5. 平成5年7月25日 東京都、鈴木文子さん「水戸藩家老・鈴木石見守の子孫」供養塔参拝。
6. 平成6年7月28日 西山中学校社会科担任杉山先生来所。戊辰戦争史料を教材用に渡す。
7. 平成7年7月12日 水戸市、史跡を訪ねる会、佐久間好雄会長外28名 供養塔参拝。
8. 平成11年10月23日 水戸市、仰天会、大森信英会長他30名 供養塔参拝。
9. 平成21年6月21日 水戸市教育委員会 教育長・鯨岡武先生、供養塔参拝  
 々々 水戸市教育委員会 文化課長・中里誠志郎先生 供養塔参拝。
10. 平成24年10月23日 水戸市、水戸殉難者恩光碑保存会 供養塔参拝  
 (別称「水戸藩国事殉難志士を慰霊する会」)
11. 々々 水戸市、幕末維新水戸有志を偲ぶ会 供養塔参拝

●水戸市史編纂室編「諸生党名簿」より、越後各地の戦没者数調査

慶応4年5月3日	越後 椎谷	15名
慶応4年5月3日	越後 宮川	11名
慶応4年5月14日	越後 灰爪	49名
慶応4年5月14日	越後 市野坪	19名
慶応4年5月14日	越後 与板	29名
慶応4年6月15日	与板見張場	8名
慶応4年7月13日	馬頭見張場	16名
慶応4年	越後	15名



◆平成元年10月12日

◆北越戊辰の役当所戦没者

供養塔建設委員会

発起人 西山町 荒木家光氏

〃 店橋正秀氏

〃 荒木俊雄氏

〃 池田基市氏

〃 野中 勉氏

〃 田中佐太郎氏

〃 池田栄造氏

〃 稲田秀雄氏

〃 茨城県 上野清彦氏

〃 茨城県 野口栄治氏

◆茨城新聞報道 「記事概略」

本紙に連載した「諸生党」の碑は、その建設の経緯について、様々な反響を呼んだ。26日笠間市友部の上野清彦さんと同町野口栄治さんが本社を訪れ、「新潟県に建てる諸生党供養碑の一部に役立てて」と70万円を寄託した。「中略」

「茨城の者を新潟の方が供養してくれるのに、茨城の者が何もしないのでは恥ずかしい」と。上野さんの話しに共鳴し、野口さん、勝田市・稲田秀秀さんも協力しようと、3人で計70万円を本社を通じ、荒木さんが事務局長を務める供養碑建立委員会に送金した。

★新潟慰霊旅行について

岡見円礼

別紙記載のとおり、

「北越戊辰戦争戦没者慰霊と史跡見学」の旅を予定通り実施します。本年は、特に、水戸市・祇園寺の「水戸藩国事殉難者慰霊法要」に毎回ご参列を頂き、交流のある友好団体の「幕末維新水戸有志を偲ぶ会」の皆様と合同して、新潟慰霊旅行を行います。

この「水戸有志を偲ぶ会」が、水戸藩朋党ゆかりの人々の融和を図る目的で創立されたと承知しています。又、当時の状況についても、一方に偏ることなく、公正な視点で、状況を判断、対応されていることに敬意を表するとともに、これからも、一層交流を深めて参りたいと思います。

今回の新潟慰霊旅行の計画に当たりましては、水戸市「教育委員会事務局」のご協力を頂き立案致しました。又水戸市のバス・福祉号を利用して頂きます。ご協力に感謝申し上げます。非、有意義な旅にしたいと皆様ご協力をお願い申し上げます。

(事務局長)

◆読売新聞記事より一部分抜粋

2月18日、水戸市、芸術館に於いて、「全国藩校サミットIN水戸」が開催されました。

テーマは「江戸の学び、水戸の学び」。全国より70の藩校が参加。

38藩の旧大名家主が集う。

徳川宗家18代当主の徳川恒孝様、水戸徳川家15代当主徳川斉正様より講演がありました。

水戸市立五軒小学校の5年生約60人による9代藩主徳川斉昭公撰文の「偕楽園記」・漢文の暗唱、披露があり、力強い声を響かせ、会場から大きな拍手を浴びました。これには大変感動しました。

◆寄付の報告

平成23年3月11日東日本大震災以降、次の会員の皆様より寄付金を頂きましたのでご報告致します。

恩光無辺の碑（諸生党慰霊碑）もおかげさまで、修復・復旧できました。重ねて御礼申し上げます。

佐藤万里子様

結城敏也様

岡見円礼

川上有文

★新年度（24年）になりました。会費の納入をお願いします。

本会は会費のみで運営していますので宜しく願います。6月30日までにお振り込みをお願いいたします。

★参考文献

市川勢の軌跡 市村眞一氏

灰爪史料遺稿 故荒木家光氏

碑建立経緯 茨城新聞社

藩校サミット 読売新聞社

中越の記憶 新潟日報社

★編集後記

★平成24年3月11日は、東日本大震災発生後、1年が経過しました。改めて、犠牲者のご冥福を祈り、被災者の皆様にお見舞い申し上げます。未だ、大変な状態が続いています。未だ、一日も早い復旧・復興を祈るばかりです。

水戸殉難者恩光碑保存会

別名水戸藩国事殉難志士を慰霊する会

★会報知恩第11号

平成24年5月1日発行

編集顧問 前澤瑞穂

編集委員 川上有文

編集委員 岡見円礼

編集委員 朝比奈泰紀

印刷・作成 編集部